

クラブの活動 一投稿一

1つ目 菱労新聞 1966年9月11日 2面

2つ目 菱労新聞 1967年7月28日 2面

1. ハローコチラハ JA1YJA =商研ハムクラブ=

【大船支部】

夏の1日、近くの山に出かけました。山頂に送受信機、発電機およびアンテナを運び上げ、日本国内二十局余と交信できました。カンカン照りで全員が腕や鼻を赤くし、後日に皮がむけて浮浪児同然。

\*新しい交信証作りしました。デザインはすべて局員によるもので、同業他社のクラブ局に負けじと社名を入れて宣伝しています。

\*社内のハム局の名簿を作る計画を進めております。これは時間を定めて、北海道から九州までの従業員（組合員）が空で会合し、会誌発行の資料とするものです。局長諸兄のご一報を。ここ1か月の交信局数は約50局の多きに到り、夏場というのに元気なこと。年間五百局を目標にして、局員全員が張り切っております。皆さんの受信機にと局のコールサイン JA1YJA が入感してありましたらレポートを下さい。写真のようなカードをお送りいたします。 一商研アマチュア無線クラブ一

2. ハムクラブ こちらは JA1YJA CQ·· CQ·· CQ·· CQ

【大船支部】

こちらは JA1YJA。去る六月三・四日の両日、山梨県山中湖畔にて三菱電機ハムクラブ第一回総会を行った。このクラブは、同好の士の親睦と自己技術の拡大を図る目的で昨年より設立を準備していたものである。

初日の昼にはアンテナを張り、北海道、東北、関東各地と交信し、また夜は交替にオペレートして、夜半まで無線を楽しんだ。翌日は自動車2台で富士山五合目まで登り、五十 MC トランシーバーで直下の局と交信。帰路は箱根を回って解散というかなりのファイト振りであった。

今回は、遠くの京電 JA3YJO からも総会に参加され、無線機を入れての記念撮影が上の写真である。第二回総会は、今回の総会の席上で交信時間を左記のとおり設定したので、全国に点在する局長さんの参加を希望する。また、組合員の皆さんで、交信を受信された方はレポートを下さい。

三菱電機ハムクラブ交信時間

1.毎月、第一金曜日の午後十時より十時三十分

2.毎月、第三土曜日の午前六時より七時まで

当日の参加チーム 京電、鎌電、サービスセンター、商研

尚、交信は七 MHz・十四 MHz・二十一 MHz・五十 MHzで行っている。

(投稿 松村 OM JA1RTG)

## 趣味・道楽・気狂い

1970年8月1日

我が道楽を、人はハムという。ハムとは、アメリカ慣例の呼称、そこで漢字にすると素人無線愛好家と書けようか。今や日本は経済で世界第二位と騒がれているが、アマチュア無線界が二位になってからは久しいもの、日本のハム人口十六万を数え、局数も六万は下るまい。

トツアマや青年時代から活躍続きの爺様から、カミさん、ジャリを含む大衆娯楽に変化した。無銭家も参加できる趣味ほどじゃないが、運用費用は知れたもの。大衆化の波は、無線家の生態を変え、送受信機自作派の割合を減らしたうえ、交信マナーの悪い連中を増した。科学技術振興という美名のもとに…いろいろある楽しみ方

楽しみ方にはいろいろあって、作っちゃ壊しの技術の虫や、外国との交信だけに金と暇を投資する奴、近所の連中とだけ空中円卓会議（井戸端会議）を開くタイプ、コンテストの入賞が生き甲斐の競争派、車や船・飛行機から電波を出して他の道楽も兼ねる奴など、エトセトラ。私なども円卓の騎士派、「CQ、大船各局」と土曜の夜にはガナっている。布団の中からも風呂上りでも、マイクを握れば相手からは見えない我が無線室（兼寝室です）。

長所も話せば宣伝めくが、ハムを始めて進歩した点は、地理と電気と外国語、少しは強くなったかなあ。あんな無口が変わったね、というところ。空中で友人には医者、坊主、船乗り、役人、自営業、学生、主婦等サマザマで、会社以外の付き合いで知恵も増すし便利です。

## 無線教の教祖様

私の短所はいろいろ有って、中でもひどいのが無線教。何の信者も同じだが、誰・彼と捕まえては、「これ以上のものはない」と押し付ける。ワイフや弟にとどまらず、今や門下生・孫弟子を加えたら三十名という有様。教祖も会長か、相談役へと席を変える頃でしょう。

「これ以上の趣味は無い」と、外国では頭取・社長・外交官がゴルフ以上に楽しむ。趣味の王様は、日本では性格を異にする。でも、キング・オブ・ホビーズ…この道へと道標を少し述べておく。本屋へ行ったら、必ず二/三種の入門書があるし、通信教育もやっている。

日本アマチュア無線連盟が、小学生でも合格できるようにと講習会を全国各地で催している。街にはハムのアンテナが乱立して、俺の家に聞きに来いと招いているようだ。クラスは易しい電話級、モールスを使う電信級、田舎の放送局並みの出力を許される二級もあれば、地球の裏まで楽々の一級までと、指定席も四種類が用意され、郵政大臣が納入される収入印紙を待っている。更に幸いなことに、従事者免許は終身でして、自動車免許や場末の劇場みたい、時間が来たら追い出されるなんて野暮は無い。若々しい写真が十年経っても貼ってある。局を開けば、これまたステキ、死んでも他人が使えない古今ユウイツの呼出符号が指定される。同姓同名は絶対に無い、私はJA1RTG。

テーブルの上の無線機が、遠くオーストラリアからの電信を伝えている。ストーブに載せ

たヤカンも高速で電鍵を打っているようだ。線路の継ぎ目でゴトゴトと。僕の耳には訂正符号…… ……今日はトンツ一の聞き過ぎかな。 (注：現行法や運用と異なります)

(名を出さずに)

## 創設以来の一大事

＝商研ハムクラブ磐梯移動顛末記＝

1970年12月21日 大船支部

十一月二十二日午前七時、メンバー八名は一号車・二号車に分乗して大船を出発、東京・宇都宮・白河を経由して郡山へ向かう。

休日のこととて車の多いこと。進行中、他の車両に割り込まれ、一号車と二号車は視野外になることしばしば。しかし、そこはそれハムクラブ。クイズを出したり、漫才や、はては交通情報（白バイが隠れているぞ）を交換して、無線による盲追放。渋滞にちょっと悩みつつも、沿道のハムや他のモービル局（車載無線局）に呼ばれて、楽しく十二時間かかって郡山に到着。

郡山の黒川氏をアパートに訪ね、裏磐梯の連れ出しに成功。元部長黒川氏の助言で目的の「白樺の家」寸前まではスイスイ。標識の見えぬほどの突然の濃霧、全員が路面をにらみ据えてのノロノロ運転。神経すりへらしたあ。

千四百円とは安いじゃん！料理もいいし、風呂もいいよと…意見は合って、はや、十時。王手、リーチで夜が更ける。「おい、起きろ。外は雪が積もってる」の声。湘南からの旅人に山々白で合図（会津）する…なんて言いつつ朝食を。

雲の切れ間にみる磐梯の山は、わずかに綿帽子、五色沼の水面、飯森山の戦跡、鶴ヶ城の雄姿に感嘆の声を上げた。猪苗代湖に向かう途中、一号車で「宝の山よ～、笹に～」なんて歌っていたら、地元の局が二番を歌って呼んできた。楽しく交信をやっていたら、二号車との連絡を忘れて大失敗。十五キロ余りも別のコースを走り込んで、かろうじて呼び戻された。無線機を積んでいてヨカッタなあ。

祭日は二千円コースしかありませんと、千五百の予約を取り消され、食べ物が前夜と段違い。こんな保養所があるものか、本社に手紙を書いてやれ…と、ブツブツ言いながら夜具の中。（磐梯熱海）

ぐっすり眠って、朝七時。郷も晴れだよ、良かったね。朝食前に荷物を積んで、と新人が急いで駐車場へ。“大変だ、無線機を盗まれた”

カーステレオと思ったか、電源コードと同軸ケーブルをゴシゴシ切って持ってった。この近所でスイッチを入れても何も聞こえないのに、バカな奴だよ泥棒は。何と言っても四万円、盗んだ野郎が憎らしい。前夜の元気はどこへやら、シュンと朝食食らってる。帰りの車中の味気無さ。相棒のなくなった無線機は、一度もスイッチを入れられることなく、大船までの喪に服す。聖徳太子が眼前に…オー、この一大事。 部長 松村恒男 記

## 地図の楽しみ

1971年6月11日

二十歳を過ぎると、市街詳細図を見る機会があっても、日本全国・世界全図に遠ざかってしまう人が多いでしょう。

日本全図で、北海道と東海道は目にするけれど、南海道・西海道は視たことある？  
東海道があるなら、東山道はあるかしら？

これらは、その気になって探したら出ている地図がありました。

北陸には南陸、畿内には畿外は無かったけれど・・地図を見るのが好きなだけ。

それもただ何となく、変な名前だよガツン湖、

日本人の命名かチチカカ湖、外洋と接しないカスピ海

ヨークが4つあるヨーク見ろ

(粟船斜視)

## 第二回総会の機運高まる

=三菱電機ハムクラブ=

1971年12月21日 大船支部

昭和四十二年六月に山中湖畔にて第一回の総会を開いて以来、久しく時が経過した。今や、三菱電機従業員中に二百余名を数える大趣味部隊になっている。早く総会開けの声高く、幹事の怠慢を恥じる次第・・

先回には、京電・鎌電・SC東京・商研が参加し、山電・岡電からは書類参加の状態であったが、今や各場所にハムクラブが設立されて、空で会う機会も増えているから、さぞ賑やかなミーティングと期待される。

五月連休に東海荘を予定しているので、ハム仲間の諸兄諸姉は金と暇の用意を頼む。静電・船電・郡電・商研の参加申し込みはもう届いている。道楽の士よ、五月に箱根でドライブを。

ハムクラブ幹事 松村恒男

## 箱根の山から交信

=<商研・船電>ハムクラブ移動記=

1972年6月11日 大船支部

五月六日、天気は申し分なく箱根に向かう。車に無線機を二台のせ、フトコロを心配しつつ有料道路を走る。修学旅行にドライブで、すごい人出で駐車場も満員。空き地を見つけてようやく安心。無線業務に取りかかる。

大涌谷は関東・東海に開けているせいか、地表波がよく飛んでいる。嬉しくて昼食が三時過ぎとなる。異常伝播があつて、九州との交信ができた。多くの交信証の交換を約束して山を下る。未だ夜風は冷たかった。

(商研ハムクラブ 松村記)

## メルコ“ハム”総会

＝東海荘で初会合＝

1972年7月15日 大船支部

東海荘に五十余名が集い、電波を飛ばし語り合った夜と昼のお話・お聞かせしましょう。

遠くは福岡・福山から十時間以上をかけて参加し、単車で十三時間とか、七台の車に旗を立てて東名を飛ばした。イヤイヤ、デカイアンテナつけて県警に叱られたと言った具合で、五月五日は東海荘開業以来、二度目の満員御礼となす。

屋上にアンテナ数本を張り巡らし、大島・伊豆・箱根・小田原といった近所と交信する者や、チョイと向こうはアメリカだよと海外局を狙う者、もっぱら最短距離に居る YL ハム（女性無線家・四名参加）との眼玉交信に励む者など、ビールによるアルコール変調がかかって、結構な夜でした。

総会ということとて、議事が有り、三時間にわたる熱心な討議が行われました。チョイと内容を紹介します。

1. ○菱会ハムクラブを認めよ。参加したほとんどの場所が○菱会クラブとして認められたが、数場所が駄目であり、場内使用許可が出ないと言う。ナンタル石頭が・社長に一筆入れたるか。松下、ソニー、シャープを見よ、会社が資金を出してまで奨励しているではないか。

2. メリコスケジュールの設定 毎月七日、朝六時から空に出よう。そして語ろう。7MHzでSSB、合図は「メルコハムスケジュール」として、名電ハムクラブがキー局となる。

3. 次回総会は、来年、京都で。

夏にテント・発電機・無線機・冷蔵庫・扇風機など持ち寄り、京電ハムクラブが中心となって、やろうではないか。

4. 事務局は商研ハムクラブ 社内・社外への活動や交流紙、会員名簿の交換など、会計業務を含めて担当とする。

—□—□—□—□— 玄関前の階段に勢ぞろい

翌朝、パッチリとした顔で揃って記念撮影、菱労新聞はカラーでなくて残念です。

朝食後は、早くも車の中、車と車は無線をつながれ、長野県へ、箱根へ、伊豆へと遊びに行く者があり、遠く郡山・福山・北伊丹へと帰路に就くもの、次第に聞こえなくなる声に別れを惜しむ。

船電ハムクラブは寄せ書きを作り配ったし、静電ハムクラブは無線で誘導係をしてくれ、誰も熱海で迷子にならなかった。

本社・伊電・通電は、各1名の貴重な参加でした。車の中での思いはさまざま、隣りの無線機はもはやノイズばかり。

五月五日は何の日だったの、大人ばかりが集まってさ。

“来年の総会には興味ある方も、どうぞ参加してください”

(メルコハムクラブ会長 松村記)

### 盛況だった第三回メルコハムクラブ総会

＝比良荘ハムクラブ員で一杯＝

1973年6月1・11 合併号 7面

〔大船〕六十八名を比良荘に集めて、第三回メルコハム総会が五月四日～五日に開かれた。第一回から回を追うごとに参加人員が増え、比良荘は貸切りでハム一色となった。

参加場所は、本社・船・鎌・商研・静・名・稲・京・通・伊・北・山・岡電で、昨年より二場所の増加である。例年ゴールデンウィークを利用しての開催であるから、参加者は軍資金（参加費プラス中古品購入費）の準備も怠りなく、無銭家にはほど遠し。

本年度は京電ハムクラブが設営を担当し、前日からアンテナを揚げ、会場に折鶴を下げて、近隣に無線カーを配備するなど、かなり凝った配車がなされた。そして会場正面には日中国交回復を記念してか「熱烈歓迎第三回全三菱電機素人無線局総会」のタテカンの用意がある。

最寄駅からのピストン輸送と無線カーとで全員無事に到着し楽しい飲食が始まる。自己紹介、かくし芸、クラブの活動状況などの発表があり、やがて議事に入る。メルコネットワーク・交信賞・交信証などを熱心に討議した。○菱会認定・クラブ局開設数の増加といった実績が確かめられ、全社的にはかなり活発に動いているクラブと言えるだろう。

会議が終わると待望の中古品即売会となった。十円のドーナツ盤やトランジスタ・雑誌類があるかと思えば、百円で車のパーツやステレオテープ、五百円のワイヤレスマイクなど…深夜まで押すな押すなの大混乱となり、翌朝さらにセリ市が立つといった状態。

一方では通信に身を入れ、無線機と共に夜を明かした者も居て、どいつも相当なキチガイ振りであった。

朝になる。前夜のアルコールは抜けても迷カメラマンが多くて、記念撮影に時間を費やすこと15分。

来年は名古屋での再会を約束し、車の人となる。静岡⇄京都を自転車にて無線機遊びするハム狂一人。熱烈壮行を受けて帰路に就く。

メルコハムクラブ 二代目会長 (商研ハム部長 松村恒男)